

ビクーニャ VICUNA

「今、日本で一番書きやすいボールペンです」と差し出されたのが、VICUNAと書かれたものだった。ネーミングがうまい!と思った。

ビクーニャ（ヴィクーニャ）は、南米ペルーやボリビア、チリなどのアンデス山脈の高地に棲むリャマに似た草食動物である。標高 5000 メートル辺りに棲息している。その首のあたりの毛からとれる繊維は、あらゆるこの種の生物の中でもっとも繊細といわれ、細いものではカシミアを凌ぎ、直径 10 ミクロンである。一時は、この繊維を採取するために乱獲されその数を減少させていたが、ペルー政府の保護によって、辛うじて絶滅を免れた。その繊細な肌触りから、皇帝や僧侶にしか着ることができなかった。

その分、稀少価値があり、普通のショールで 100 万円である（税は別）。しかもこれを製作している会社の社長の方針で、現金でしか買えない。セーターも同じ。毛布で 300 万円、スーツ用の生地も同じ。あるとき、カシミアか何かで作ったものに、表面の色だけビクーニャのように見えるショールを売っていた所もあるが、そこまでいくと浅ましい。

この社長は、内モンゴルでもカシミア製品を織っていて、この人と会うといつも話がはずむ。あるとき、その町の町長から表彰された。理由は、会社内に水洗便所を完備したからである。あの辺もモンゴルと同じで、垂れ流しやさかいね。黄砂に混じって日本にも飛来する。

話をボールペンにもどすと、いわゆるインクジェット式のボールペンならなんでもいいのである。とにかく書きやすい。米国に持って行ったところ、やっぱり日本製のボールペンは書きやすいわネ。・・・逆に米国のボールペンは、太いばかりで、日本製のような緻密な構造ではない、ことを意味している。